

長野県知事 阿部 守一 様

## 令和4年度長野県産業廃棄物3R実践協定 実施結果報告書

下記のとおり、産業廃棄物3R実践計画の実施結果報告書を提出します。

協定期間	令和 3年度から 令和 5年度	
会社名	株式会社 竹原重建	
住所	〒386-1102 長野県上田市上田原1195番地1	
代表者名	代表取締役 竹原 健二	
区分	○中間処理 ・ ○最終処分	
許可番号	2041043323	
処理施設 所在地 (複数ある場合はそれぞれ記入)	施設名	所在地
	原峠中間処理場	上田市上田原1957-1他
	殿城最終処分場	上田市殿城宿組877-1他
担当部署	業務部	
担当者名	竹原 英典	
連絡先	TEL	0268-24-6974
	FAX	0268-24-6881
	電子メールアドレス	hide@takehara-net.co.jp

## 1 目標達成状況

\*当年度目標値は、当年度実践計画書への記載数字を記入する。

\*当年度実績値は、計画期間における目標値に対する実績値を記入する。

## (1) リサイクル率実績 (中間処理の場合) (%)

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	令和3年度 実績値	令和2年度 実績値
木くず	98.0	92.6	97.0	98.2
紙くず	45.0	0.00	39.7	0.01
廃プラスチック	40.0	39.6	41.5	61.9
がれき類	99.0	99.6	98.6	98.5
石膏ボード	100.0	100.0	100.0	100.0
金属くず	100.0	100.0	100.0	100.0
ガラス陶磁器くず	70.0	80.8	66.92	98.7

## (2) 再生利用実績 (中間処理業者の場合)

(t)

廃棄物の種類	当年度目標値 及び実績値		過年度実績値		用途
	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	令和3年度 実績値	令和2年度 実績値	
木くず	1,200.0	635.23	1,151.79	1,560.24	バイオマス燃料
紙くず	20.0	0.0	17.41	0.12	再生紙
廃プラスチック	400.0	220.73	367.23	529.34	補助燃料
がれき類	8,000.0	14004.69	7,500.24	10,060.4	再生砕石
石膏ボード	150.0	301.52	147.61	323.12	セメント原料
金属くず	100.0	155.83	77.83	282.58	金属原料
ガラス陶磁器くず	15.0	25.48	14.99	14.16	補助燃料

## (3) 最終処分量実績

(t)

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	令和3年度 実績値	令和2年度 実績値
廃プラスチック	450.0	336.00	517.04	324.8
ガラス陶磁器	6.5	6.07	7.41	0.0
燃え殻	10.0	12.79	12.08	22.85
がれき類	100.0	56.58	102.97	156.85
石膏ボード	0.0	0.0	0.0	0.0

## 2 産業廃棄物の種類、排出量、処理量、処理方法、排出ガス、排出水等に関する情報公開実績

品目毎にリサイクル率を明記した書類の公開を本社にて実施している。  
また、焼却実績及び排出ガス、埋立量及び排出水に関する情報本社にて閲覧できるようにしている。  
HP上でも公開する。

## 3 産業廃棄物処理施設 (中間処理施設等・最終処分場) の地域への公開実績

施設の名称	施設公開状況			
	日時	対象者	人数	内容
原峠中間処理場	7月6日	市内居住者	25人	施設の稼働状況や作業状況、廃棄物処理の現状の確認
殿城最終処分場	3月19日	地元自治会	6人	施設の維持管理状況の確認
	8月27日		5人	

#### 4 中間処理・最終処分を委託した処理業者（施設）の現地確認実績（中間処理業者）

区分	廃棄物の種類	現地確認結果（確認回数、確認日、確認状況等）
中間処理場	廃プラスチック 石膏ボード	持込の都度、運搬担当者が施設の稼働及び処理状況を確認
最終処分場	廃プラスチック	持込の都度、運搬担当者が施設及び処理状況の確認を実施。
	ガラス陶磁器	年に1回以上、管理責任者が施設及び今後の処理計画等の確認を実施
	石膏ボード 燃え殻	同上

#### 5 従業員教育（研修）実績

実施月日	対象者	実施内容
社内講習会	全従業員	排出段階における選別による処理の効率化を図り、再生利用量の増加に繋げる等
原嶋中間処理場	処理業務従事者	廃プラスチック、石膏ボードの処理に関する現状と今後の対策

#### 6 排出事業者への協力要請実績

<p>廃棄物の適正な処理を行う為に、フローシートに沿った処理を行えるように分別の徹底を依頼している。特に最終処分場の埋立容量が逼迫しつつある現状を説明し、廃プラスチックやガラス陶磁器類のリサイクル率を向上させられるよう、排出前の清掃や徹底した分別の協力を依頼した。</p> <p>廃棄物処理施設における火災事故や爆発事故を防止する為、使い残しのあるスプレー缶や乾電池、ライター等が混入する事のないよう徹底してもらおうよう依頼した。</p>
---

#### 7 リサイクル技術向上に向けた取組み実績

<p>廃棄物の混合での受け入れは原則的に禁止し、分別が確実に行われている廃棄物の受入量を増やし、リサイクル率の向上を図る取組みを行っている。</p> <p>汚れの付着した廃棄物の持込前の洗浄を徹底してもらい、汚れの付着したままの廃棄物は持ち帰ってもらい綺麗にしたうえで再度持ち込んでもらうようにする取組みも行っている。</p>
---

#### 8 不法投棄・不適正処理を発見した場合の協力実績

<p>中間処理場近辺の山林に不法投棄が行われていないか定期的にパトロールを実施し、一般廃棄物が投棄されているのを発見し、市への通報・報告を行った。</p> <p>また、処理の依頼があれば適切な対応を取れる体制を整えている。</p>
---

## 9 その他独自に取り組んだ事項についての実績

代替素材への転換※1、環境認証制度※2の取得、電子マニフェスト（公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター）の導入等を含む。

ISO14001の認証を更新し、日々の業務活動における環境負荷の低減に役立てている。  
長野県SDGs推進企業制度への登録を行い、リサイクル率の更なる向上を目指す取り組みを行っている。  
電子マニフェストの積極的な活用を行っている。

- ※1 化石燃料由来プラスチック製品等からバイオマスプラスチックなど環境負荷の低い素材や製品へ転換していくこと
- ※2 環境 ISO 14001、エコアクション 21 等